

全科協ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成15年5月1日発行 (通巻第190号)

平成14年度全科協海外科学系博物館視察研修報告

平成14年度の全科協海外視察研修は、平成15年1月12日から2週間にわたり、欧州（スウェーデン、ドイツ、イギリス）の主要な博物館を視察研修した。今回は全国から19名が視察研修に参加した。

前年にならい全科協事務局から視察研修する各博物館に事前に依頼状と質問事項を送り、各館の基礎的なデータを入手することとした。事務局の訪問館への手配とあわせて、出発前に事前研修会を行い、視察研修する館の広報資料を入手するなど予備知識を確認した。また、今回の参加者の博物館業務等との関わりや、関心のある事項をもとに、管理・運営、展示、教育活動の3つのグループに分かれて調査事項について検討をした。限られた研修日程のなかで各館の対応者と効率良く意見交換が出来るように、グループ毎に視察研修の計画を立てた。

I. 管理・運営

【スカンセン（スウェーデン）】 <http://www.skansen.se/>

スウェーデンの首都ストックホルム市街中心部よりバス等の交通機関で約20分の、かつて王室の領地であった敷地に置かれる。創立者ハゼーリウスの意志により、国内の歴史・民俗・風土を物語る資料を収蔵・展示する機構が1891年に発足した。

1963年以降、現在の国立博物館としての体制が確定し、国内各地から移築した建造物やスウェーデンに特有な動物等を屋外に展示する。また、滞在を含んだ生活体験等の教育プログラムを提供しており、児童・生徒から専門的研究者まで、さまざまな人々に活用されている。

博物館は、日本の文部科学省にあたる省庁の所管となる。内部組織は、動植物、文化・歴史、イベント、修繕・維持、教育普及の事業部門と管理部門とで構成される。常勤職員は約170名で、夏季繁忙期には約1000名の臨時職員を雇用す

る。年間の運営費は総額1300万スウェーデンクローナ（＝約21億円）。政府援助金による歳入と入場料および商品販売では予算不足となるため、企業や市民団体からの資金提供で補填する。広大な敷地を利用したコンサートや市場の開催等、大規模なイベントを開催することもあり、年間入場者は130～140万人を記録する。

（株）丹青社 小池 克宜

【ドイツ博物館（ドイツ）】

http://www.deutsches-museum.de/e_index.htm

世界最大級の科学・科学技術博物館であり、今年創立100周年にあたる。科学の普及を目的として、古代から人類が追究してきたあらゆる分野の科学と科学技術の歴史と現状に関する膨大な展示物を約68000㎡に展示している。今後さらに博物館の国際化と教育活動の拡充を目指し、今年2月にはとくに幼児を対象とした展示場「子供の国」を新設し、来年には交通博物館と遺伝学、ナノテクノロジー、ソフトウェアを3本柱とするニューテクノロジーセンターを開館する計画である。

年間予算は、約3000万ユーロ（＝約37億円）でその2/3は国、州、市などからの補助金、1/3は入館料などの自己収入でまかなっている。常勤職員は360人で、他に150人のパート、ボランティアなどがある。年間入館者は、ミュンヘン市の人口とほぼ同じ130万人で、その1/4がドイツ語圏以外である。

館長のフェールハマー教授によると、収集、保存、記録、研究、展示など科学館の本来の使命を果たすのみでなく、公衆の科学教育の場として、科学の進歩に合わせた展示物の増設や、科学劇などの新しい演出法の工夫を行っており、今後もこの方向で科学センターと科学館のハイブリッドを目指して運営していきたいとのことであった。

きつづ光科学館ふおとん 永井 士郎

【ミュンヘン市立博物館（ドイツ）】

<http://www.stadtmuseum-online.de/>

市立である当館は市長に直結する形で位置付けられ、館長、12名のキュレーターのほか、工房スタッフ、事務系スタッフなど総勢110名の常勤職員で運営されており、館の規模や活動状況に比して職員数は多い印象を受けた。

財政面については、大人の常設展の入館料として2.5ユーロ(300円強)を徴しているが、入館料収入は極僅かであり、運営費の大部分を市からの補助金に依存している状況である。このため、市の財政悪化により今年は展示品等の新規購入費は措置されていないとのことである。また、市場調査や館の活動状況に対する評価等は特に行われていない。

これらのことから、管理・運営面においては参考とすべき点等は見いだすには至らなかった。

国立科学博物館 柳瀬 寿

【フンボルト大学自然史博物館（ドイツ）】

<http://www.museum.hu-berlin.de/>

約2500万点の標本を有し、始祖鳥ベルリン標本で有名な自然史博物館である。1810年に大学の附属機関として設立され、1889年に一般向けに博物館として開館した。館長以下、常勤職員が110名おり、内50名が研究者である。

収入800万ユーロ(=約1億円)のうち94%が大学の予算であり、6%が寄付金・入館料収入・ショップの売上である。支出の78%が人件費であり、22%が展示や広報などの事業経費となっている。

年間の入館者数は約25万人であり、恐竜の展示目当ての子供の入館者が多いため、生徒の団体や家族での利用が多い。また、特筆すべき入館者層として、ベルリン市を訪れた観光客がある。これは、ベルリン市の観光政策の一環として、市内の博物館の共通入館券「ミュージアムパス」(大人10ユーロ、子供5ユーロ)を導入しており、そのパスを利用した入館者が年間1万人となっている。

国立科学博物館 浅草 澄雄

【インテク（イギリス）】

<http://www.intech-uk.com/default.html>

インテクはウインチェスター市内の空き校舎を利用し1987

年にスタート、その活動が評価され1998年にミレニアムコミッションから550万ポンドの資金援助を得ることになる。そのほか中央政府や企業から寄付を募り合計1020万ポンドを集め、また現在の敷地や物品の無償の提供を受け、2002年6月完成、8月にオープンした。

現在('03年1月)までの入場者は約27000人。平日来館者の大半が地元ハンプシャー州の小学校(来館者の約50%が平日の学校利用、50%が休日の一般利用)である。年間入場者目標は15000人。

運営資金は、職員給与は州教育庁から出るがその他は自前で確保しなければならず、地元企業約30社がスポンサーになっている。収益を上げるため施設や工作機械の一般・学校への貸出し、ワークショップの出前などを有料で行っている。

館の評価はミレニアムコミッションの調査が年1回。州や市は来場した学校に直接問合せ確認している。独自には、来場者への聞き取り、教師へのアンケート、子どもたちの感想文収集などを行っている。

(株)乃村工藝社 吉田 耕次

【マグナ（イギリス）】 <http://www.magnatrust.org.uk/>

市の再開発事業として地元の製鉄工場を科学館(サイエンスアドベンチャーセンター)としてリニューアルし、2001年4月に開館した。総工費4560万ポンドのうち50%をミレニアムコミッションから、残り50%はEUや地元の開発庁の助成や企業の寄付などである。

年間の運営費は約220万ポンドであり、その全額を企業の寄付・入館料・会場賃貸・レストラン・ショップの売上などの自主財源でまかなっている。他の博物館のように地方



マグナ外観

自治体からの補助金がないため苦しい経営状態である。そのため、開館当初120名いた職員数を、65名へとリストラした(職員数内訳:常勤職員38名・パート27名)。また、新たな展示のために約600万ポンドの助成金を申請中である。

この館はマーケティングに力を入れており、入館者層を分析し、ターゲットを絞って広報活動を行っている。

国立科学博物館 浅草 澄雄

【メイキング・イツ (イギリス)】

<http://www.makingit.org.uk/index.php>

イギリスのミレニアムプロジェクトにより、ビール工場を改造して体験型科学館として2002年4月にオープンした。学校の教育カリキュラムで重要な設計と技術をメインテーマとして、子供たちの創造力育成をねらった展示と工作教室がある。県と地元企業からのメンバーによる理事会と常勤4名など22名のスタッフにより運営されている。年間予算は大部分を県、慈善団体、企業などからの寄付に依存しており、不足分を館内のレストラン、会議室のレンタル、ミュージアムショップなどにより補う努力をしているが、財源集めが大きな課題とのことである。入館者の大部分は学校外授業として教師と一緒にクラス単位で入館している小・中学生である。

購読会員 永井 知子

【大英博物館 (イギリス)】

<http://www.thebritishmuseum.ac.uk/>

我が国の独立行政法人の参考となった英国のエージェンシーである大英博物館においては、約25年前から市場調査を行い運営の参考とされている。

このうち重要な収入源である寄附金や協賛金、施設使用料等を獲得するための経費や広報経費を事項立てして報告書に記載するとともに、寄附を受けた企業名や個人名も併せて記載している点は参考とすべき点と思われる。

また、常設展は無料だが、教育事業については学校団体、個人とも有料であり、さらに教育部門と保存や修復を行う部門は職員の雇用も含み企業等のスポンサーシップで運営されている点は注目される。

さらに、約1,000名の職員を抱える大英博物館の人件費は総事業費(約100億円)の80%を占めるため、昨年は約150名を削減したとの話は特筆すべき点である。

その他、今回視察した英国の各館とも政府等の補助金や寄附金等の減少から大幅な職員の削減が行われている。なお、この対応策としてボランティアの活用方策等を検討しているという話は興味深い。

国立科学博物館 柳瀬 寿

II. 展 示

【スカンセン】

城壁に囲まれた、心地良い静寂に包まれた中世の森は、木々に鳥の巣が点在し、放し飼いのリスが道先案内をしてくれる。王様の子供たちが戦争ごっこをする場所だったこの地は1891年、ストックホルムの教育者ハゼーリウスが変貌する国の暮らしを後世に残そうと、コレクションをはじめ、言葉(方言)、衣装、建築、祭り、さらには家畜から野生動物にいたるまで、5世紀にまたがる、北から南までスウェーデンの歴史環境そのものを体験するテーマパークとして、国民に開放されている。現在にいたる歴史遺産の収集にとどまらず、国の産業・生活・自然にかかわる資料の保存・収集と体験型イベント運営が常に進捗しつづけることに、「生きた展示」本来の姿がみられる。中世の町並みを散策すると、訪れた建物は当時の住居であり、農家であり、お店、工場であったりと、建物を覗く楽しみと新鮮な驚きとともに足取りも軽くなっていく。伝統産業としての金物工場にはガイド役の職人のおじさんが自ら手作業で図面を描き、金物の加工を実演する。職人の誇りとともに実機を通じて熱く語るおじさんの歴史・技術解説に勝るリアルな展示手段はないと痛感させられる。

(株)乃村工藝社 宮越 庸一

【ドイツ博物館】

21世紀を迎えて、新しい展示計画が目白押しである。特に2003年はドイツ博物館開館100周年ということで、2月に「子供の国」(1300㎡)、5月に「新交通センター」、同5月に別館として「航空博物館」(8000㎡)がオープン予定。「化学」の展示替も計画されている。2000年5月にオープンした「薬学」展示は、「化学」展示替全体の最初の部分であるが、人体内の生化学的反応を扱った展示になっていて、観覧者はミクロの世界にジャンプして人間大(37万倍)に拡大された細胞の小部屋に入ったり、赤血球やシナプスなどの展示を巡ることになる。また、「子供の国」は3歳～6歳の

未就学生を念頭に置いて計画されたもので、5つのコーナーに分かれたハンズオン展示である。21世紀のドイツ博物館では「教育」がますます重要な役割をもつものと感じられた。

所沢航空発祥記念館 山口 孝和

【ミュンヘン市立博物館】

1888年からの歴史を刻む博物館。主にミュンヘンの中世から現代までの歴史、文化に関する収集物が展示されている。収集内容は、武器、工具、楽器、玩具、絵画、彫刻、印刷物など多岐にわたる。大小様々な展示物が整然と陳列された各フロアは、その量的充実度からも、まるで専門博物館の集合体であるかのようなのである。各展示部門には専門の担当者が配置されており、展示物の解説や操作を行う。また、展示物と観覧者の間に、ロープパーティションなどの境界を一切設置していない。床の色、床の線、台の高さなどで区別している。修復室を設置しており、展示物の自前修復を行う機能を有する。地域文化資料の保存、散逸防止が使命と自負する地域密着型の博物館である。

国立科学博物館 持田 茂伸

【フンボルト大学自然史博物館】

この博物館はベルリン大学の附属教育機関としてスタートしている。展示は分類・生態の両面から構成されていたが、哺乳類・鳥類など動物はく製標本の展示室は照明や温度などがコントロールされている。また、キャプションなどが必要最少限度におさえてあるので、見学者にとってはいささか苦勞する。どこの自然史博物館でも恐竜に関する展示資料が注目されているようだが、ここでもブラキオサウルスなどに人気があるようだ。期待していた始祖鳥の標本はレプリカで壁面にひっそりと展示。ハエやカ、ハチなどのモデル標本はじつに精密にできていて強く印象に残った。

熊本市立熊本博物館 村上 功

【インテク】

地域の教育施設であるインテクには、小学生が科学の原理を体験的に理解するための展示装置が87台ならんでいる。例えば「トルネード」と名づけられた展示では、上昇気流と水平方向の気流を強弱させる2つのハンドルを体験者が調整し、あるバランスになると見事竜巻が発生する内容で



「トルネード」

ある。ハンドルの簡単な説明に続いて『どの位置にしたら上手く出来るかな?』と書いてあり、生徒の発見を重視している。展示装置の制作に当っては、ナショナルカリキュラムとの適合性及び教育的な効果について地元ハンプシャー州の産業界や教育者の人達と検討を重ねたとのこと。このようなハンズオン型展示の場合、製作者の意図を生徒に理解してもらうための人間が必要になる。インテクでは、学校の先生が下見に来た際にガイドブック等できちんと説明し、先生による予習を行って来館してもらい、体験した後に学校に戻って復習する事が望ましいと考えている。しかし、体験中のヒント出しも大切にインテクの数人の職員では少し足りないようであった。今後は、退職した技術者や先生で適任の人がいれば、昼食とガソリン代程度でボランティアを募りたいとの意向であった。

購読会員 坂梨 基彦

【マグナ】

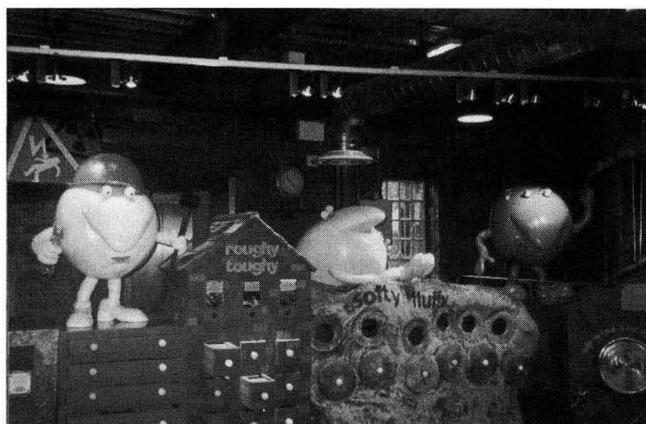
イギリス・ロザラムにある「マグナ」は、旧鉄鋼精錬工場を利用したサイエンスアドベンチャー施設である。マグナとはラテン語で「大きい・巨大」という意味を持つ言葉だが、その言葉に違わず巨大な建物の内部に、「土」「火」「空気」「水」といった4つのテーマの展示場をもち約180点の展示を設置している。展示物は、すべてこの施設に合うようにオーダーされたもので、事前に試作も行き、耐久性のチェックも行ったということである。展示物は、基本的には科学的な内容を紹介しつつ、地域の遺産である鉄鋼に関する内容を関連づけている。また、4つの展示スペースとは別に「ビッグメルト」というアトラクションがある。これは、巨大な溶解炉を使って、激しく火花を飛ばしたりスモークをだしたりしながら精錬の様子を再現し、当時の工場

の様子や鉄鋼の歴史などを紹介するものであるが、とにかくその巨大なスケールに圧倒された。

マグナは、地域の産業と科学的な内容を取り込みながら地域の活性化も図るという試みを行っている施設である。

大阪市立科学館 小野 昌弘

【メーカー・イツ】



素材の触覚を確認する展示

2002年開館の新しい科学館。地元産業であるビール工場を改装した建物。原則としてイギリスナショナルカリキュラムに沿った内容の展示を設置。教育的な要素を強く持つ。オリジナルキャラクターを設定。機械操作的な要素を持ち、複数で競争しながら楽しむことができる体験型の展示が人気。商品の製造・宣伝・販売、環境問題など身近な題材を展示に採用。工作コーナーが設置されており、部品から万華鏡、ロケット、モーターなどを作り上げることで一層の教育効果を見込む。展示の製作、修理は外注。工作キットのデザイン製作は大学の協力。展示は常に壊れているものが無い状態にするよう心がけている。地元教育機関との緊密な協力体制、利用関係により、学校教育と一体化した地域の教育センター作りをしている。

国立科学博物館 持田 茂伸

【大英博物館】

他館にない特徴として、4万個もの彫刻を、展示室の至る所にインスタレーションするという計画が興味深かった。館内に宇宙人がやってきたといったというコンセプトらしく、彫刻自体は20センチ程の人形型の素焼きといった感じの仕上がりで、一部がすでに展示ケースの中に列品されていた。アカデミックな大英博物館が、アートとのコラボレーションに対し柔軟であることに意外な印象を受けた。展

示自体は特にこれといった工夫のある展示があるわけではなかったが、コーナーの所々で来館者が実物を触ることの出来るコーナーが設けられていた。これは説明員が机の上に広げた実物を来館者に触らせながら解説を行うといったもので、来館者の反応も上々であった。展示のアクセントとして効果的だったものとして、展示物の人気投票というものがあった。どの展示物が一番気に入っているかを英国人に投票してもらい、上位10に「TOP10」という表示がしてあった。学芸員が考えるところの重要な展示物とはまるで異なった物が選ばれたそうである。

(株)丹青社 西山 健一

III. 教育活動

【スカンセン】

世界初の野外博物館であるスカンセンの園内では、年間を通して催し物が行われており、夏至祭には、民族衣装での踊り、秋とクリスマスには園内に市場が立ち、夏にはコンサート、フォークダンス、人形劇なども開催され多くの市民が訪れている。

園内の展示「町のエリア」は、古いストックホルムの町を再現し、町の中にガラス工場などのいろいろな工場があり、職人の実演や工作のワークショップを開催し、スウェーデンの優れた手工芸技術を紹介している。

今回は、金物工場で「小皿」の加工の実演が行われた。大きな電動モーター1台で工場内の多くの加工機械を動かすため、ところ狭しと回るベルトの様子や加工過程を見学することができた。旋盤やベルトの回転する音や油のにおいなど往時の雰囲気そのままに、職人の方の実演や説明など、理解しやすく工夫された教育普及活動を実施していた。

前 国立科学博物館 武田 良正

【ドイツ博物館】

ドイツ博物館の教育活動のひとつである学校向けガイドツアーは、小中学校の児童生徒、学生、専門学校生など25名以下をグループとして実施している。

博物館は、図書館を併設しており、科学史及び科学技術の専門書をいつでも自由に閲覧室で見ることができる。

新しい展示「子供の国」を開設する目的のひとつには、ドイツでの「子供の科学離れ」に対応して、教育環境を整備するためであるとの説明であった。



「薬学」の展示

今回の視察中には、「薬学」の展示コーナーにおいて、中学生のグループが展示を利用した学習を行っていた。引率の教師は展示を活用した授業で生徒達を指導するために、教師自身が事前に来館して展示内容を確認した上で、指導案を作成していた。

前 国立科学博物館 武田 良正

【ミュンヘン市立博物館】

1500年頃建築の元兵器庫を改装して、1888年にオープン。郷土・人形劇・楽器・写真・映画・玩具の博物館に加えて1500㎡の企画展示室2室があり、コレクションの収集、修復、研究を中心として活動している。博物館は資料提供を基本として、展示案内を行わず、バイエル州の組織：MPZ(ミュージアム教育学センター)が、博物館の専門コーナーに人員派遣し、生涯学習的な立場から有料案内をしている。企画展についても同様に、展示出展者が案内・解説を行うのが基本姿勢だ。

人形劇博物館では、約15000点の実物資料を展示。オープン展示の物は境界がない。バリエードすることで来館者と



専門担当者によるハープ演奏

の距離が生まれることの方を問題にする考え方には、共感できた。楽器博物館は一般公開をしておらず、幼稚園、児童生徒の活動や楽器を知りたい人等、目的を持った人のみが対象で、身障者の学習にも活用されている。特に子供の体験学習には、ガムランの利用頻度が高く、2時間単位の演奏体験のカリキュラムもある。展示楽器は全て演奏可能で、定期コンサートも活動の大きな柱だ。楽器博物館担当者はドラやハープ、ピアノにサクソと様々な楽器を演奏。古文書修復担当者は、修復法についても解説するなど、各担当者それぞれが専門性を高め、研究心とプライドを備えて運営に携わる姿が印象的であった。

(株)乃村工藝社 満長 正明

【フンボルト大学自然史博物館】

恐竜の骨格標本がある博物館は子どもに人気がある。おそらく全世界共通のことかもしれない。この館を訪れる人の9割は、それを見るためにやってくるのだそうだ。月に一度、夜12時まで延長開館して行われる『長い博物館の夜』という企画は、標本の作り方を学んだり、映画を観たりと参加性の高いもので、市民との結びつきを高め、歴史ある博物館に新しい交流の場をつくる役割を果たしている。

また、子どもたちに人気のある「Kiri」というゾウのキャラクターを使い、広報活動において情報メディアとの連携をはかることで、話題性を高め、利用者の関心を惹きつけている。

年間の子ども利用者は全体のおよそ2割にあたる58,000人。このうち学校などの団体利用は半分もなく、夏休みなどの休暇時の利用が多いというデータがあることから、一般市民の生活に浸透したポピュラーな博物館であることがわかる。

(株)丹青社 森 富広

【インテク】

最もユーザーライクな「ハンズオン型 科学技術センター」ではないだろうか。

インテクは、平日来館者の大半が地元ハンプシャー州の小学校であり、地域密着型の教育普及活動を行っている。特徴は、各々の学校に合わせた柔軟な対応をソフト面のみならず、展示装置等のハード面においても行っている点にある。装置の製作段階から教員と密接に連携し、細かな要

望を取り入れて完成させていく。これにより、例えば教員は、理科の教科書に沿ってそこに記載してある「揚力のしくみ」を“インテックに依頼して作成してもらった装置（吊るされた飛行機模型が風を当てることにより上昇する機構）”を利用し、実際に体験させながら生徒に説明するといった授業も可能となる。この様な装置は展示目的以外にも、学校への貸出や、出張授業にも利用されている。

また同館は、少人数でのデザイン・パソコンの学習から、大学・企業規模での講義も可能な施設を有しており、中学生以上のための組み合わせ学習（科学のみならず、他の教科も加えて学習）や地域住民へのパソコン教室等、生涯学習にも取り組んでいる。

この様にインテックは、ハード・ソフト両面での柔軟な教育サポートが可能であり、私がいもし教員であるなら、是非利用したい科学博物館である。

ガスの科学館（東京ガス） 花田 裕久

【マグナ】

製鋼所跡を利用し、科学館に改装。2001年に開館した、サイエンス・アドベンチャーセンターである。製鋼の4要素である、土・空気・火・水をテーマにした、それぞれのパビリオンは、ハンズオン展示で構成されている。

教育普及活動については、開館間もないこともあり、課題も多いという。

しかし、オープン時から教育活動は、この館の大きな目的のひとつであり、学校や教育関連機関と連携しあい、各パビリオンでの展示を検討し、教育カリキュラムを作成してすすめているため、大きな教育効果をあげているとのことである。

広報活動については、利用者の調査にまず重点がおかれている。来館者を調査し、年間1000人以上の人達（各年齢層・周辺地域の各階層）を対象にアンケートをとり、それをもとに企画展などの情報を提供している。

一方、館利用に関して、企業への大ホールの貸出しなど、運営面でも努力している。

苫小牧市科学センター 佐藤 昌人

【メイキング・イツ】

マンスフィールドという地方都市の教育センターが、「学校が何を期待し、何をサービスしてほしいのか」を探りな

がら、全国共通のナショナルカリキュラムに応じたものを行っていることがよくわかった。

教育センターには、デザイン・テクノロジー、バーコードの不思議、新聞作成などが「触って」、「試してみる」という学習方法で設置してあり、子供達が馴染んで楽しめるようになっていた。

教育センターと学校の連携については、生徒を連れて来る学校の先生に、前もって情報を提供して、先生に内容をわかしてもらってから始め、センターのスタッフと先生が話し合っ、センターのスタッフが学校の授業を受け持ち、一緒に生徒に助言し、説明して、学校では作ることができないものを、学校の授業に合わせて、学ばせていることが上げられる。

この教育センターは、作品が順序立てて、達成できるように工夫されており、また、子供達が楽しみながら達成できるようにスタッフが活動していることが印象的だった。

防府市青少年科学館 木村 雅幸

【大英博物館】

時代の流れとともに、IT 機器を增強し、データベースの構築やホームページによる情報発信、映像による展開も行われる一方、教育普及においては実物資料を軸とした活動が根底にある。現在はナショナルカリキュラムに基づいて、「社会における科学の重要性を啓発」が行われている。そこでのワークショップは教師向けのホームページでプログラムを紹介し、事前に問い掛けのワークシートを配布。そのうえで博物館において、観察・体験から化学的実験、自然科学や民俗系等の多方面からの調査、解説を行い、再び学校で同じ問い掛けをもとにフォローするという流れだ。また館内には科学者が常駐しており、ワークショップでの化学的分析を手伝ったり解説など重要な働きをする。昨今の学生の科学離れに対応し、15~16歳の卒業前の生徒を対象に、インターンシップを受け入れ、『科学保護員の仕事体験』のプログラムを行ったという。英国においては博物館を核に、産業界・教育界との連携が盛んである。

また TV プログラムと連動し、「ブリティッシュミュージアム Top10」として館の宝物を選出した所、キュレーターと、来館者でトップが異なったそうである。発信者と受け手の意識の違いを、再確認する面白い試みだと感じた。

（株）乃村工藝社 満長 正明

P0830.html

エディンバラ王立博物館に、世界初のクローン羊「ドリー」が登場

1996年にエディンバラのロスリン研究所で世界初のクローン羊として誕生した「ドリー」が、進行性の肺疾患にかかり、回復の見込みがないという獣医師の判断をもとに、同研究所により2003年2月15日に安楽死した。

今まで一般大衆の目に触れることがなかったそのドリーが、「剥製」としてエディンバラ王立博物館に寄贈され、早ければ4月11日より、同館の展示コーナー「サイエンス・ゾーン」で公開されることになっている。

<http://www.nms.ac.uk/news/whatson-index.htm>

ロンドン自然史博物館で、中国の羽毛恐竜を紹介した特別展が開催中

2000年に中国・遼寧省の農地で発見された1億2400万年前の羽毛恐竜 *Protarchaeopteryx* の化石（中国地質博物館所蔵）を紹介した特別展「中国の羽毛恐竜」が、現在ロンドン自然史博物館で開催中である。2003年5月5日まで開催後、エディンバラ王立博物館で2003年6月27日から9月7日まで開催。Dino Birds: The Feathered Dinosaurs of China.

<http://www.nhm.ac.uk/museum/tempexhib/dinobirds/>

<http://news.bbc.co.uk/1/hi/sci/tech/2132152.stm>

メルボルン博物館で、過去500年間に絶滅した動物を紹介した絵画展が開催中

過去500年において、西欧諸国がオーストラリア、アメリカなどに進出した結果、多くの固有の動物が絶滅した。そのうち、オーストラリアで絶滅が確認された103体の動物を描いた絵画展が、メルボルン博物館で開催されている。会期：2002年11月30日 - 2003年7月30日 A Gap in Nature.

<http://melbourne.museum.vic.gov.au/exhibitions>

米太平洋科学館（シアトル）で、メリーゴーラウンドを紹介した特別展が開催中

最近日本各地の遊園地があいついで閉鎖され、同時に目玉遊具であるメリーゴーラウンド（回転木馬）も少なくなってきたが、アメリカでも同じようだ。20世紀初頭では全米各地で約1万台のメリーゴーラウンドが稼働していたが、今では140台だけが現役のようだ。

オレゴン州フードリバーにある国際メリーゴーラウンド美術館では10台の古いメリーゴーラウンドが保存されている。メリーゴーラウンドに取り付けられた木製の動物は、木馬が多いが、同館で集められた木製の動物には、ウマだけでなく、犬猫をはじめ、七面鳥、ニワトリ、山羊、ライオン、トラ、キリン、シマウマ、ロバや名前がわからぬ海の化け物まである。

同館で収蔵されているメリーゴーラウンドと、美しい木製の動物が、現在シアトルの太平洋科学館で開催されている特別展「メリーゴーラウンドの美と科学」で紹介されている。子どもだけでなく、大人も童心にかえって、美しい動物に見とれるだけでなく、実際にいくつかのものに跨ることもできる。会期：2003年2月8日 - 5月4日 Carousels: Art and Science in Motion

<http://www.pacsci.org/exhibits/>

<http://www.carouselmuseum.com/>

カリフォルニア科学館で、タイタニック号の特別展が開催中

アメリカ人はよほどの映画好きと見えて、博物館の特別展に映画をもってくることが多い。空前のヒットを記録した映画『タイタニック』（監督ジェームズ・キャメロン 1997年作）もその一つである。現在ロサンゼルスのカリフォルニア科学館で開催されている特別展「タイタニック」は、海底に沈んだタイタニック号の船体から発見された乗客の遺品や船体そのものの一部が展示されている他、一等客室等も再現され、タイタニックの沈没の直接の原因だと考えられている冰山を模した巨大な氷の固まりも展示室で触れることができ、人気を博している。

同展の大きな特徴はその娯楽性だけでなく、数カ所で同時に開催することである。2002年11月に始まったオクラホマ・シティのカークパトリック科学博物館での開催（2003年7月6日まで）を皮切りに、カリフォルニア科学館（2003年2月9日 - 9月1日）とデトロイトのデトロイト科学館（2003年2月8日 - 9月7日）および、パリのラビレット（2003年3月8日 - 8月31日）でも開催されている。次の開催場所は、米国ノースカロライナ州ローリーにあるノースカロライナ自然科学博物館（2003年8月2日 - 2004年1月2日）等である。Titanic.

<http://www.casciencectr.org/Exhibits/Weingart/Titanic/Titanic.php>

* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

開催館	展覧会名	開催期間
山形県立博物館	企画展「藤沢周平とやまがた」	4月26日～6月29日
ふくしま森の科学体験センター	特別企画展「電気と光のおもしろ実験工房」	4月15日～8月31日
郡山市ふれあい科学館	特別展「毛利宇宙飛行士の部屋～ユニバソロジーの世界～」	4月26日～5月5日
栃木県立博物館	企画展「氷河時代の狩人たち-旧石器時代の自然と暮らし-」	4月27日～6月15日
	テーマ展「栃木のカエルとサンショウウオ」	12月14日～7月13日
	テーマ展「栃木の平野とくらし(畑作)」	4月27日～9月15日
群馬県立自然史博物館	第18回企画展「ツノ出せ、ツメ出せ、キバを出せ！」	3月15日～5月18日
さいたま市青少年宇宙科学館	企画展Ⅰ「大昆虫展～館収蔵標本～」	4月12日～6月22日
埼玉県立自然史博物館	企画展「こけ・コケ・苔」	4月1日～6月8日
千葉県立中央博物館	生態園トビックス展「春の林」	4月22日～6月1日
国立科学博物館	特別展「神秘的王朝-マヤ文明展」	3月18日～5月18日
	特別展「江戸大博覧会-モノづくり日本-」	6月24日～8月1日
国立科学博物館附属筑波実験植物園	「クレマチス展」	5月10日～6月8日
科学技術館	特別展 国際博物館の日協賛イベント「自然科学写真展」	4月26日～6月1日
機械産業記念館	「次世代カーとITホーム～日本発エコ&ユビキタス技術」 PART III	4月9日～7月25日
TEPCO銀座館	暮らしのラボ第4回企画展「ペットロボットとデザイン家電」展	5月8日～6月3日
たばこと塩の博物館	「現代根付展～高円宮憲仁親王コレクション～」	5月20日～7月6日
目黒寄生虫館	特別展「エキノコックス症」	4月29日～9月28日
三菱みなとみらい技術館	特別展示「STOP!地球温暖化 ぼくらはみんなエコレンジャー！」	3月18日～9月28日
馬の博物館	春季特別展 こどもミュージアム「うま博士の大発見」	3月15日～6月1日
	テーマ展「ひづめ、わらじ、蹄鉄」(仮称)	6月7日～7月27日
	テーマ展「ドーミエの諷刺画」(仮称)	6月7日～7月27日
横浜子ども科学館	特別展 びっくり!!スゴイツミ木=魔法の板・カプラ=	3月21日～7月6日
横須賀市自然・人文博物館	特別展「ペリー来航100周年の頃 -絵巻物と写真が語る150年前と50年前-」	5月27日～6月29日
神奈川県立生命の星・地球博物館	企画展「2002年度博物館活動報告展」	4月26日～6月8日
富山市科学文化センター	特別展「毒虫・寄生虫展」	4月26日～6月15日
新潟県立上越科学館	特別展「木とあそぼう」	4月29日～5月25日
黒部市吉田科学館	特別展「黒部の自然3-黒部の魚-」	6月7日～8月31日
いしかわ動物園	パネル展「エコ動物園」	6月1日～6月30日
佐久市子ども未来館	特別展「光の空想科学館」	3月15日～6月30日
瑞浪市化石博物館	特別展「1600万年前の日本-ひろがった熱帯の海-」	6月15日～8月31日
中津川鉱物博物館	第13回私の展示室「中津川の植物-私の植物画日記から-」	3月16日～5月11日

開催館	展覧会名	開催期間
東海大学海洋科学博物館	「屋台水族館」	5月3日～5月5日
豊橋市自然史博物館	収蔵資料紹介展「みのがすな！夏の特別企画展」	4月19日～6月29日
トヨタ博物館	特別展「博覧会と自動車 限りない夢と感動の軌跡 ～愛・地球博まであと2年」	3月25日～7月6日
水環境科学館	特別展「湖辺のシンフォニー」 津野幹子 日本画展	4月26日～6月1日
吉備高原ニューサイエンス館	春の特別展「おもしろサイエンスボックス」	4月26日～5月5日
防府市青少年科学館	開館5周年記念企画「スペースツアー展」	4月26日～6月8日
あすたむらんど徳島 子ども科学館	第7回企画展「飛び出す迫力」立体映像の世界を楽しもう！」	4月26日～5月6日
愛媛県立博物館	テーマ展「春のチョウ」	4月1日～5月25日
	テーマ展「河原の石（肱川流域）」	6月1日～7月27日
愛媛県総合科学博物館	企画展「きれいないし」	3月22日～5月5日
	企画展「愛媛の野鳥」	5月11日～5月25日
福岡県青少年科学館	「スポーツの科学 ～知ろう！さわろう！ためしてみよう！～」	4月19日～5月18日
宮崎県総合博物館	企画展「ふしぎな石のひみつ」	4月26日～6月15日
沖縄県立博物館	企画展「新収蔵品展」	6月10日～7月6日

全科協情報

●科博メールマガジンを通じて、イベントの広報ができます

国立科学博物館では5月18日から隔週にメールマガジンを発信します。

全国科学博物館協議会の加盟館が、全国的に募集する事業の案内を掲載する項を設けましたので、掲載希望の事業がありましたら全科協事務局までお寄せください。

歴史体感

□ロボットが誘う、歴史伝説の世界

伝統文化の保存と伝承を目的とした施設、建設にも積極的に参加しております。



◀閃光に驚き、バランスを失う武士たち。



▲刀が振り下ろされるその瞬間、目が眩むんばかりの閃光が走る。

佐渡歴史伝説館 / 日蓮聖人 佐渡法難

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・設計・制御演出・施工

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号

TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050

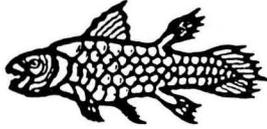
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

株式会社 ココロ

美術

はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限会社 **東洋近代美術研究所**

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 ☎047-337-5678
FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

ミュージアムの集客を強力にサポート

新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】



イベント情報ポータルサイト
EventNAVI
<http://www.eventnavi.ne.jp>

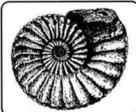
全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご活用ください。

株式会社 乃村工藝社
本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171(代)
ホームページ <http://www.nomurakougai.co.jp>
ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工
ISO9001認証取得(文化環境カンパニー) ISO14001認証取得(MCカンパニー)

イベント情報
無料登録受付中!

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

since 1974

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

株式会社 東京サイエンス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745
<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail:info@tokyo-science.co.jp

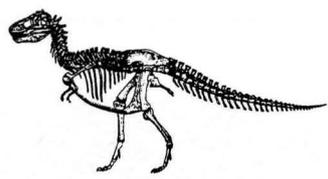
調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…

株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL <http://www.tanseisha.co.jp>

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOB0 CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3 シグマ神保町4階
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム

メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー
投射を可能にした小型・高精細のデジタル
プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な
CG映像を投射するマルチ投射機能を持ち、
さまざまなシーンで活躍します。



ISO14001 認証取得

ミノルタプラネタリウム株式会社
〒108-0074 東京都港区高輪2-19-13 TEL.03-5423-7571
〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL.0533-89-3570
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町2-30 TEL.06-6386-4950
<http://www.minolta.com/japan/mp/index.html>

MINOLTA

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター 河野光子
滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長 高橋啓一
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透
独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課専門職員原田紀子

全科協事務局
国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 村上 剛
Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成15年5月1日
発行 全国科学博物館協議会©
〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印刷 島崎印刷株式会社